

# 令和4年度 逗子市下水道事業会計の 財政状況について

逗子市環境都市部下水道課

## 目次

- ▶ はじめに . . . p 3
- ▶ 収益的収支と資本的収支について . . . p 4
- ▶ 損益計算書について . . . p 5
- ▶ 資本的収支について . . . p 8
- ▶ 貸借対照表について . . . p 9
- ▶ キャッシュ・フロー計算書について . . . p12
- ▶ 経営指標について . . . p15

# はじめに

## 3

- 本市の下水道事業は、令和元年度に公営企業会計へ移行しました毎年、おもに次の財務諸表を作成し、公表しています
  - 損益計算書
  - 貸借対照表
  - キャッシュ・フロー計算書
- ここでは令和4年度逗子市下水道事業会計決算書などから、本市の下水道事業の財政状況をわかりやすくご説明します

# 収益的収支と資本的収支について

公営企業会計では、  
損益にかかわる取引（収益的収支）と  
投資にかかわる取引（資本的収支）を明確に区別しています

## 収益的取引

おもに下水道施設を維持、管理するための取引

- 収益的収入・・・下水道使用料など
- 収益的支出・・・人件費、光熱水費、支払利息など

損益計算書で  
収支を把握

## 資本的取引

おもに下水道施設を整備、改築するための取引

- 資本的収入・・・企業債など
- 資本的支出・・・建設改良費、企業債の償還元金など

決算報告書で  
収支を把握

# 損益計算書について

5

平成〇〇年度××町下水道事業損益計算書(イメージ)  
(平成〇〇年4月1日から平成△△年3月31日まで)

<b>1 営業収益</b>	<b>61,341,600</b>
下水道使用料	34,575,600
雨水処理負担金	23,049,000
受託事業収益	3,413,000
その他営業収益	304,000
<b>2 営業費用</b>	<b>50,629,100</b>
管渠費	6,161,750
処理場費	18,486,950
受託事業費	3,490,000
総係費	13,565,800
減価償却費	8,146,800
資産減耗費	605,000
その他営業費用	173,000
<b>営業利益</b>	<b>10,712,500</b>
<b>3 営業外収益</b>	<b>1,062,184</b>
受取利息及び配当金	213,140
長期前受金戻入	614,000
雑収益	225,024
<b>4 営業外費用</b>	<b>7,789,700</b>
支払利息及び企業債取扱諸費	7,708,200
雑支出	91,500
<b>経常利益</b>	<b>3,984,984</b>
<b>5 特別利益</b>	<b>70,000</b>
固定資産売却益	70,000
<b>6 特別損失</b>	<b>50,000</b>
減損損失	50,000
<b>当年度純利益</b>	<b>3,984,984</b>
前年度繰越利益剰余金	0
その他未処分利益剰余金変動額	0
<b>当年度未処分利益剰余金</b>	<b>3,984,984</b>

3つの段階で利益を把握  
利益 = 収益 - 費用

## ①営業利益

通常の業務活動の損益の結果が表示されます。

## ②経常利益

通常の業務活動に関する損益に加えて資金調達等に関する損益の結果が表示されます。

## ③純利益

1年間の全ての損益の結果が表示されます。

損益計算書からは、下水道施設を維持・管理するためにどのような経営活動を行いどのような成績だったのかわかります

過去の経営を分析し、将来の方針に役立てることができます

出典：総務省「地方公営企業法の適用に関するマニュアル（平成31年3月改訂版）」

# 損益計算書を見てみよう

通常の業務活動の成績は、782,921千円の営業損失となりました

項目	金額 (千円)	項目	金額 (千円)
維持管理などにかかる費用	725,503	下水道使用料	734,941
減価償却費	1,019,407	雨水処理負担金	227,969
その他	1,630	その他	709
<b>営業費用</b>	<b>1,746,540</b>	<b>営業収益</b>	<b>963,619</b>

営業収益  
(963,619)

営業費用  
(1,746,540)

営業損失  
(-782,921)

プラスなら営業利益  
マイナスなら営業損失  
になります

# 損益計算書を見てみよう

7

営業損失と資金調達にかかる収支などを足した、最終的な経営の成績は42,696千円の純損失（赤字）でした

項目	金額（千円）	項目	金額（千円）
支払利息	24,191	他会計補助金	275,712
その他	11,081	その他	499,785
<b>営業外費用</b>	<b>35,272</b>	<b>営業外収益</b>	<b>775,497</b>

営業損失  
(-782,921)

+

営業外収益  
(775,497)

-

営業外費用  
(35,272)

=

経常損益  
(-42,696)

プラスなら経常利益  
マイナスなら経常損失  
になります

経常損益とは本業以外の収支も含めた成績のこと  
令和4年度は突発的な損益（特別損益）がなかったため  
経常損失がそのまま令和4年度の純損失になります

## 資本的収支について

資本的収支とは下水道施設を整備、改築するための取引のことで決算報告書に載せています

項目	金額（千円）	項目	金額（千円）
建設にかかる費用	1,537,189	企業債借入	1,145,800
固定資産購入費	1,606	他会計補助金	44,927
企業債償還金	350,385	国や県からの補助金	434,512
<b>資本的支出</b>	<b>1,889,180</b>	<b>資本的収入</b>	<b>1,625,239</b>

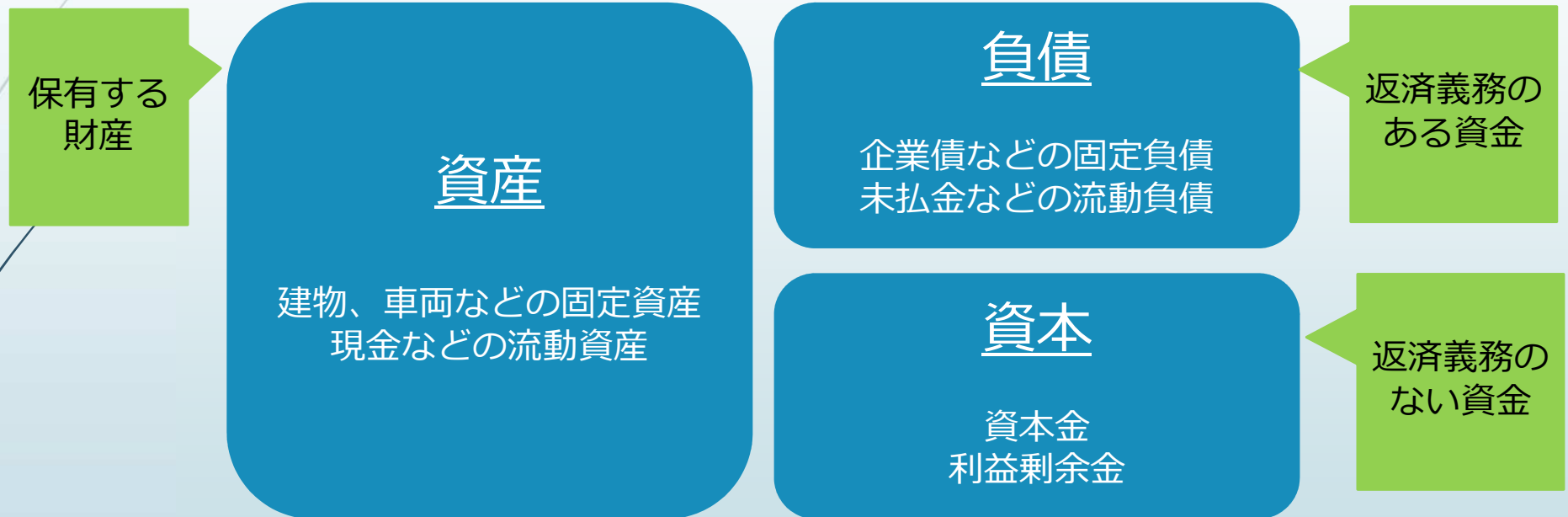
資本的収入と資本的支出との不足分については補てん財源（減価償却費など現金の支出をともしない費用等）をあてています



# 貸借対照表について

貸借対照表とはその時点での資産や負債を表示するもの

《貸借対照表のイメージ》



負債と資本で資金調達し、資産を形成  
 $\text{資産} = \text{負債} + \text{資本}$ になります

# 貸借対照表について

平成〇〇年度××町下水道事業貸借対照表(イメージ)  
(平成△△年3月31日)

【資産の部】		金額	【負債の部】		金額
固定資産		385,647,047	固定負債		158,880,390
有形固定資産		385,085,147	企業債		157,799,790
土地		10,129,998	リース債務		321,800
建物		70,396,056	退職給付引当金		729,000
構築物		264,806,815	流動負債		8,910,218
機械及び装置		41,063,839	企業債		3,007,890
車両運搬具		2,119,011	リース債務		190,000
工具、器具及び備品		2,898,130	未払金		3,556,568
リース資産		1,725,000	未払費用		8,000
建設仮勘定		0	前受金		32,000
減価償却累計額		▲ 8,053,703	買入引当金		90,000
			その他流動負債		95,000
無形固定資産		541,900	繰上利益		3,807,000
借地権		261,600	長期前受金		4,421,000
地上権		58,600	繰上利益累計額		▲ 914,000
特許権		29,300	債権合計		171,597,608
商標権		192,400			
投資その他の資産		20,000			
投資有価証券		20,000			
流動資産		20,344,980			
現金預金		8,748,284			
未収金		10,842,998	【資本の部】		金額
買掛金		▲ 209,000	資本金		197,987,757
貯蔵品		2,919,180	剰余金		38,788,632
前払費用		90,000	資本剰余金		32,781,899
			再評価積立金		32,742,899
			受贈財産評価差額		35,800
			利益剰余金		3,984,964
			減価積立金		0
			当年度未処分利益剰余金		3,984,964
			資本合計		234,424,389
資産合計		408,991,997	負債・資本合計		408,991,997

**資産の部**  
土地、建物、権利、現金・預金など企業の所有財産が記載されています。

**負債の部**  
企業債など支払義務があるものなどが記載されています。

**資本の部**  
資本金や事業で得られた利益など返す必要のない資金が記載されています。

貸借対照表からはどのような資金調達を行っているか、どのような資産を得ているかがわかります。

左半分は「企業の持ちもの」  
企業の財産がどのような状態で、いくらあるか把握できます。

右半分は「資産の源泉」  
企業の財産がどのような財源でつくれたか把握できます。

出典：総務省「地方公営企業法の適用に関するマニュアル（平成31年3月改訂版）」

# 貸借対照表を見てみよう

11

資産を形成するための財源が負債と資本であり、  
資産 = 負債 + 資本になります

項目	金額 (千円)	項目	金額 (千円)
有形固定資産	14,250,683	企業債	3,121,949
固定資産の合計	14,250,683	固定負債の合計	3,121,949
現金	321,332	1年以内に返済する 企業債	289,390
未収金	237,504	未払金	175,240
流動資産の合計	558,836	その他	7,520
		流動負債の合計	472,150
		繰延収益の合計	6,253,870
		<b>負債の部 合計</b>	<b>9,847,969</b>
		<b>資本の部 合計</b>	<b>4,961,550</b>
<b>資産の部 合計</b>	<b>14,809,519</b>	<b>負債・資本の部 合計</b>	<b>14,809,519</b>

# キャッシュ・フロー計算書について

12

平成〇〇年度××町下水道事業キャッシュ・フロー計算書(イメージ)  
(平成〇〇年4月1日から平成△△年3月31日まで)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
当年度純利益	3,984,964
減価償却費	8,146,800
減損損失	50,000
長期前受金戻入額	▲ 614,000
受取利息及び配当金	▲ 213,140
支払利息及び企業債取扱諸費	7,708,200
固定資産除却損	557,000
固定資産売却損益(▲は益)	▲ 70,000
未収金の増減額(▲は増加)	▲ 2,541,898
未払金の増減額(▲は減少)	2,086,074
たな卸資産の増減額(▲は増加)	▲ 30,959
引当金の増減額(▲は減少)	968,000
その他流動資産の増減額(▲は増加)	▲ 25,000
その他流動負債の増減額(▲は減少)	▲ 10,000
小計	19,978,241
受取利息及び配当金	213,140
支払利息及び企業債取扱諸費	▲ 7,708,200
業務活動によるキャッシュ・フロー	12,481,181
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	▲ 38,398,800
有形固定資産の売却による収入	300,000
無形固定資産の取得による支出	▲ 85,000
一般会計等繰入金による収入	3,500,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 34,661,800
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
企業債による収入	25,000,000
企業債の償還による支出	▲ 3,076,940
リース債務の支払額	▲ 160,800
財務活動によるキャッシュ・フロー	21,762,260
資金増加額(又は減少額)	▲ 418,359
資金期首残高	7,163,753
資金期末残高	6,745,394

## 業務活動によるキャッシュ・フロー

通常の業務活動の実施による資金の収支や投資活動、財務活動以外の収支が表示されます。

## 投資活動によるキャッシュ・フロー

通常の業務活動の基礎となる固定資産の取得及び売却の収支が表示されます。

## 財務活動によるキャッシュ・フロー

増資、減資による収支や資金調達、返済に関する収支が表示されます。

キャッシュ・フロー計算書とは資金の収支状況を活動別に表示するもので、現金の収入・支出について把握することができます

出典：総務省「地方公営企業法の適用に関するマニュアル  
(平成31年3月改訂版)」

## キャッシュ・フロー計算書を見てみよう

業務、財務活動によるキャッシュ・フローはプラスでしたが、投資活動によるキャッシュ・フローはマイナスでした

項目	金額（千円）
当年度純損失	- 42,696
減価償却費	1,019,407
その他	- 567,813
支払利息	- 24,191
<b>業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>384,707</b>
有形固定資産の取得による支出	- 1,692,674
国庫補助金などによる収入	443,584
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>- 1,249,090</b>
企業債の借入による収入	1,145,800
企業債の償還による支出	- 350,385
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>795,415</b>
<b>資金増加（マイナスは減少）額</b>	<b>- 68,968</b>

# キャッシュ・フロー計算書の読み方の例

《令和4年度のキャッシュ・フロー》

業務活動	投資活動	財務活動	資金増加額
384,707	- 1,249,090	795,415	- 68,968

《読み方の例》

令和4年度はここでした

	業務活動	投資活動	財務活動	読み方
パターン①	プラス	マイナス	マイナス	本業の現金出納はおおむね良好 借金を返済しつつ投資も行っている ことが想定される
パターン②	プラス	マイナス	プラス	本業の現金出納はおおむね良好 投資の財源を借金に依存している ことが想定される
パターン③	マイナス	マイナス	プラス	本業の現金出納が厳しい 日常の資金繰りも借金に依存してい ることが想定される

# 経営指標について

15

■ 経営の現状および課題を把握するために、ほかの団体と比較可能な「経営分析比較表」を作成しています

■ ≪経営分析比較表のおもな指標≫

- 経常収支比率
- 流動比率
- 経費回収率
- 有形固定資産減価償却率
- 汚水処理原価

※なお、類似団体とは総務省が公表しているもので、本市は以下の区分に該当します

処理区域内人口	処理区域内人口密度	供用開始後年数	同規模団体数
3万人以上 10万人未満	50人/ha以上 75人/ha未満	30年以上	63

(令和4年度末時点)

## ● 経営指標～経常収支比率～

- 使用料収入や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息などの費用をどの程度まかなえているかを表す指標
- 100%を下回ると単年度の収支が赤字であり、経営改善に向けた取り組みが必要になると考えられます

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
逗子市	93.32%	94.94%	94.95%	97.60%
類似団体 平均値	106.32%	106.67%	106.90%	106.74%

令和4年7月に  
下水道使用料の改定  
を行ったため改善が  
見られました



## ● 経営指標～有形固定資産減価償却率～

- ▶ 有形固定資産の老朽化度合いを表す指標で、数値が高いほど法定耐用年数（50年）に近い資産が多いことを示す
- ▶ 将来の施設の改築（更新・長寿命化）などの必要性を推測することができます

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
逗子市	7.90%	15.54%	21.44%	25.02%
類似団体 平均値	21.22%	23.25%	25.20%	27.42%

供用開始から50年が経過したことから、管渠の老朽化が進んでいます

## ● 経営指標～流動比率～

- ▶ 短期的な債務に対する支払能力を表す指標
- ▶ 100%を下回ると、1年以内に現金化できる資産で1年以内に支払わなければならない負債をまかなえていないということ

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
逗子市	27.83%	44.86%	64.85%	118.36%
類似団体 平均値	71.54%	67.86%	72.92%	81.19%

令和4年度は、未払金や償還元金の減少により流動比率が改善しました

## ● 経営指標～汚水処理原価～

- ▶ 有収水量(※) 1 m<sup>3</sup>当たりの汚水処理にどれだけコストがかかったかを表した指標
- ▶ 他団体などと比較してあまりに高い場合には投資の効率化などの経営改善を行う必要があると考えられます

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
逗子市	120.29円	150.00円	144.29円	150.00円
類似団体 平均値	141.15円	136.86円	138.52円	138.67円

令和4年度は1m<sup>3</sup>の汚水を処理するのに150円かかりました

※有収水量とは、上水道の使用水量など使用料の算定基準になる水量のこと

## ● 経営指標～経費回収率～

- 使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料でまかなえているかを表した指標
- 100%を下回っている場合、汚水処理にかかる費用が使用料以外の収入によりまかなわれていることを意味するため、適正な使用料収入の確保や、汚水処理費の削減が必要と考えられます

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
逗子市	85.11%	72.53%	70.05%	78.61%
類似団体 平均値	88.05%	91.14%	90.69%	90.50%

令和4年7月に  
下水道使用料の改定  
を行ったため改善が  
見られました

## おわりに



逗子海岸の東浜にある石原慎太郎氏の作品が由来の「太陽の季節記念碑」と、海から望む太陽が色鮮やかに描かれたデザインマンホールで、JR逗子駅前にあります

- 令和4年7月には、下水道事業会計の赤字解消等を図るため、下水道使用料の改定を行いました。
- 経営の健全化を図るため、令和5年度に逗子市公共下水道事業経営戦略の改定を行う予定です
- 今後とも逗子市の下水道事業にご理解・ご協力をお願いいたします